

三田国際中_他合格

子供は現在通っているインターの中学にそのまま上がり、高校は併設がないので別のスクールに通うつもりでしたが、中学で日本のサッカーのクラブチームに入団できる事が6年の6月に決まり、将来の事を考え中学に上がるタイミングで日本の学校にシフトするのがベストと考え中学受験を決めました。

受験勉強は全くしておらず、学校の進路案内で話のあった ena ともう1つの塾に早速連絡をしました。コロナ禍だったので、ena からパンフレット頂いてメールでも詳しくご説明頂いたのですが判断がつかず、直接説明に伺ったもう1つの塾の個別指導にそのまま入り国語からはじめましたが…。こちらの塾の個別指導は国際生用ではなかったのになかなか成果も見られずでしたが、ご縁あってやっと ena 東京校へ11月より入塾。

ena に入ってからすぐの帰国生模試は予想以上の散々たる結果で、いったい学校で何を勉強してるの？とこちらが勝手に始めたにも拘らず子供へ強い言葉を投げてしまいました。

受講した算数の授業は全然分からないだろうから塾に通うのを嫌がるかと思ったのですが、先生とクラスメイトに恵まれて一度も行きたくないと言う事なく通えました。特に永田校長にやりきるためにお勧め頂いた3講座の受講をした冬期講習を乗り切れた事が最後の最後に志望校に合格できた理由だと思います。受講時間も長かったので、宿題や復習をするには朝も夜もずっと勉強しないと終わらず、一日が勉強で終わるのは人生初めての経験でした。この経験が彼の中に問題を解く力の基礎を作り、精神面でも最後まで自分が自分を信じ、きっと次は受かるはずというモチベーションが築けたように感じます。親の心配とは逆に当人は冬期講習がとっても楽しかったそうです。

1月の通常授業が始まり今まで算数で計算問題以外あまりなかった丸が文章題でも見られるようになりました。先生から頂くメールの平均点には程遠いのですが、自分が解けた事が嬉しいらしく毎回どれだけ合っていたか教えてくれました。重要な英語は、算数、国語に不安がある分、テストで1問も間違えない気持ちで臨める基礎力を鍛えて頂きました。インター生だからこそ過信しがちな英語は、「受験」の英語で満点を目指すために細かい学習が必要だと感じました。国語は授業で試験を受けられるレベルまでもって行って頂けましたが、受験に関わらずこつこつと日々漢字を勉強して、日本語の本を読んでいれば良かったと思います。親のミスです。

志望校は英語メインで受験が出来る所、入ってから英語の取り出し授業がある学校で決めました。数が少ないので、行ける所は実際に子供と行く方が良いと思います。説明や生徒の雰囲気を見て行きたくないとなる場合もありますが、実際に行きたいと思う学校へは最後まで頑張れます。

急に決めた受験だったので、しっかりと準備されているこれから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイスなどおこがましいですが、親はツールを与えてあげる事は出来ますが、実際やるのもやらないのも、頑張るのも頑張らないのも子供次第です。ena の先生方はプロなので、やる・頑張るまでもっていってくれますが、親も家でサポート出来ます。ena でやる気をもらって来ても家でなくしてしまうのはもったいないので、倍増させて下さい。

ダメだと分かっているけどイライラしたりがっかり怒ったりしましたが、褒める時は出来る限り言葉にして一緒に勉強しました(英語以外)。苦手そうな問題はママにも教えて！と頼むと説明してくれ、説明出来ない塾で分かるまで質問して教えてもらった事を自慢げに教えてくれました。当たり前ですが、人に教えるは自分が理解していないと出来ない事なので、苦手部分の復習には良いと思います。

親の不安や迷いは塾の先生に伝え(永田先生 連日申し訳ございませんでした)、子供へは常に合格を信じている姿勢を見せ、不安や迷いは伝わらないようにしました。不合格を連発しても本人の方がショックなので親のショックな姿は見せず、ママは頑張ったの知ってる！前回より進化しているから次は大丈夫！その為に今日も一緒に頑張ろう！とぎゅ〜と抱きしめ、その日を大切に作る為に切り替えました。

連日の不合格は全てやめてしまいたくなるほど精神的にかなりのダメージを与えてきますが、子供へは知らないことが知れるなんてすごい経験だね、こんなに頑張る姿が見れてママは幸せ。こんなに頑張ったのだから結果は結果、気にしないという事は常に伝えていました。最終日、複数の選択肢から受験先を第一志望校の再チャレンジと決めたのは本人でした。先生からの的確なアドバイスと共に毎回不合格ながら自分で何が出来たのか、何が出来なかったのか、どうすれば受かることが出来たのか積み重ねた事を自分なりに考えた上での判断だったと思います。

結果はいつもの見慣れた青文字ではなく、赤文字の「合格」です。おめでとうございます。で、子供の頑張りが実ったことが嬉しくて号泣でした。

特に2月1日からは電車の中で沢山の受験生をお見かけしました。不安と緊張と疲れの混じった子供達の顔が忘れられません。うちは奇跡的に第一志望校合格することが出来たのできれいごとの様に聞こえてしまうかも知れませんが、合否に関わらず頑張った受験生皆さん全員に4月から素晴らしい中学生生活を送って頂きたいです。これから受験される皆様はどんな結果であれ受け入れられる悔いのないチャレンジをして頂けたら、その経験が次に繋がって行くと思います。

余談ですが、毎回テスト前に見れる短い手紙を入れていました。私の母がしてくれていた事なので、自分の子供にも同じ事をしました。最後のテストの日、初めてちゃんと手紙を入れてねとお願いされました。緊張のテスト前を見ると力が出るそうです。小さなことですが、子供に少しでもテスト前に安心感を持ってもらう事は親の出来る最大のサポートではないかと思えます。

白百合学園中_他合格

・中学受験を決めたきっかけ

首都圏の私学受験率等もありますが、中高時期に再度海外転勤もあり得るため、転出後も転入できる可能性がある私学の方が良いかと考えたことも大きな理由です。

・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

2年間のインター校では、学校に行くのが苦にならなければ良いくらいのゆるい気持ちでおりました。補修校や塾もなかったため、日本の勉強は、国語と算数だけは教科書から遅れないように、自宅で保護者監督のもと、漢字は学年に合ったものを勉強、算数は上級者向けドリルを自習させました。

・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

5年生の7月に帰国後、ena 国際部東京校に通わせ始めました。始めは塾の勉強を親がフォローしませんでしたので、あまり効率よく学習できなかったと思います。国語はもともと本を読むことが好きだったことが貯金となっていたようですが、算数はなかなか正解できませんでした。6年生の4、5月に、緊急事態宣言があったために親子共々自宅で過ごすこととなり、この時に親が算数の勉強をフォローし始めました。間違った問題のコピーを取りノートに貼り、間違い直しノートを何度もやらせました。また、毎日勉強するページ等を付箋で印をつけて、学習状況を管理するようにしました。

英語もなかなか点が取れないため、8月以降、親が(ようやく)きちんとフォローし始めました。文法問題を何度もやらせる(6年後期のイノシシは毎回3-4部コピーを用意し、各回最低2、3回やる)、リーディングの解き方を説明する、エッセイも親が添削して書き直しをさせるようにしました。

・学校選びのポイント

我が家は、通学時間と受験科目優先で選びました。国語と算数で点を取れるタイプなので、英語一本の学校は無理だと思っていましたが、受験先を広げるために英語のみの受験校も一つ受験しました。この学校は不合格でしたが、対策で英語の勉強を真剣に行うようになり、結果、英語の点が取れるようになったので受験して良かったと思います。

・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

我が家は実施が遅かったように思いますが、塾の勉強を親がフォロー(進行管理)することは必要と思います。

開智日本橋中_他合格

我が家が中学受験を決めたのは、小学5年の時でした。小学2年で帰国してインターナショナルスクールに入学しましたが、学年に1クラスしかないためあまりに世界が小さいと思い学校を変えることを本人に提案しました。本人としては、インターで充分楽しく過ごしているのになぜ？と言う思いだったのですが、学校見学に行ってから考えが全く変わりました。自分の通っている学校にはない施設や行事、特に実際に通っている生徒にお話を聞いて感銘を受けたようです。

中学受験としては小学5年のスタートは遅かったです。特にインターのため国語力の遅れ、算数の取り組み方の違いが受験に追いつくのに困難でした。それでも、本人がどうしても受かりたい、どうしてもあの学校に行きたい、と思い続けたため受験を乗り越えられたと思います。

中学受験を決めるのは親が主導になることが多いと思います。しかし、実際に勉強するのは子供です。気分が乗らない時も、思った様に学力が上がらない時もあります。そんな時、それでもやらなくちゃ、と立ち上がる力は本人にしか生み出せないと思います。

ぜひ、これから受ける方は受験の前にいろいろ学校見学をして本人の受かりたいきっかけを見つけていただくと頑張る力になると思います。

都立白鷗中_他合格

小学3年生から5年生の2学期まで海外で過ごしました。帰国後、せっかく学んだ英語を今後も維持、上達させたいという本人の希望があったため、公立ではなく、英語の勉強の面でよりよい学校に入れるよう受験を検討することになりました。

ena 国際部に通い始めたのが、すでに5年生の2月でした。

それまで受験勉強をしていませんでしたので、算数・国語の受講をあきらめ、本人の苦手意識がなかった作文と面接に集中することとし、志望校を決めました。また、英語力は維持したかったので、英語総合を受講し、まずは英検2級を目指すことにしました。

第一希望は、作文面接(日英)で挑める都立白鷗中学校

第二希望は、英語と日本語作文で挑めるかえつ有明

塾を始めてすぐに、緊急事態宣言となり、授業はすべてオンラインとなりました。一番苦労したのは、このオンライン授業では、なかなか本人の意識が上がらなかったことです。学校も休校で、ストレスがたまる中、受験勉強をオンラインでこなすのは大変でした。得意だったはずの作文を書くのも嫌になる時期があり、宿題もこなせなくなっていました。2学期から対面が始まり、先生方と直接お会いでき、ここから塾も楽しんでいけるようになりました。スランプになっていた作文も、どんどん書き直して先生に挑むのを楽しんでいるようでした。作文、面接、時事問題など、家族でも話す機会が増えて、親子ともどもよい勉強になりました。先生のアドバイス通り、あまり親からは作文内容について意見しませんでした。最初は心配しましたが、受験の頃には、彼らしい意見が上手にまとめられるようになったと思います。

英語はレベルが高い学校が多いように感じました。英検受験や、志望校に合わせて、英語総合、英検クラス、エッセイ、インタビューを受講しました。良い授業で、1年間で英語力も随分向上しました。引き続き中学でも頑張ってもらいたいと思っています。

受験校に合わせて、柔軟に受講クラスを選ぶことができたのが、enaの良いところだと思います。コロナで大変な年でしたが、オンラインや対面も柔軟に対応していただき、とても助かりました。

渋谷教育学園渋谷中_他合格

・中学受験を決めたきっかけ

日本に帰国後、日本の小学校へ編入したのですが、みんなと同じようにやり方を合わせないといけないということへの違和感、個人の能力をなかなか認めてもらえないという環境、転校生や帰国生が少ないエリアだったため、今までの経験に対する理解も進まなかったという状況の中、このまま公立の中学校へ進むのは子供にとっての成長のチャンスを逃すのではないかと考えるようになりました。我が家では、子供自身が感じていた強烈な違和感があって、地元の中学校に通いたくないという明確な意思表示があったため中学受験を決めました。

・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

現地にいる間は、帰国がいつになるのか決まっていなかったため、日本に戻ったときのためにと、現地校に通いながら現地の日本語補修校にあたる学校で4科目を勉強していました。帰国のタイミング、帰国場所がわからなかったこともあり、受験するかも決められる状況になかったので、受験勉強に値するようなことは何もしていませんでした。

・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

帰国後、英語力維持のために英会話スクールなど色々調べましたが、通学時間や料金などを考慮するとなかなか選びきれませんでした。また、帰国子女と言えどもレベルは様々なことを痛感し、自分にあった場所を探すのは大変だと思いました。英語の文法は体系的にきちんと学んでいなかったのか、enaに通い始めてからも苦労しました。帰国すると英語に接する機会もなくなるので、語彙を増やすのも大変だと思います。帰国後はどのように英語を勉強し、力を維持することはもちろん、さらに伸ばす方向へ持っていくかは大きな課題でした。

中学受験を決めた後、最初に受けた模試の結果で算数が散々だったことを記憶しています。小学校の授業でわからないことはないレベルでも受験の算数は全然違うことを認識し、ほぼゼロ状態からのスタートとなりました。

今年はコロナ渦にあり、オンライン受講が可能になってから通塾することはありませんでしたが、我が家の場合は、最初の散々な模試結果があったのがその後の勉強のモチベーションになったと思います。

・学校選びのポイント

最初からこの学校に行きたいという明確な意思があってenaに入塾しました。もともと受験を考えていなかったのですが、入塾後、その他の学校を調べ始めた感じです。

我が家は子供の希望で「共学」「家から近い」「帰国子女がそれなりにいる」「英語クラスがレベルで分かれている」などを基準にしました。

・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

やっているのかやっていないのか、やる気があるのかないのか、親としてはつい口を出したくなるが多かったです。あまり口出したつもりはないですが、きっと子供に言わせればやはり口うるさい親だったとは思いますが。

アドバイスになるかはわかりませんが、それでも子供はやっていると思います。遊びたい気持ちの中、机に向かっているのだと思います。

やったことはきちんと褒めてあげて、模試の結果が悪くても「次！」と思って、過去を見るのではなく未来を見ていくのがいいのではないかと思います。(もちろん、復習は大事ですので、模試の見直しはきちんとしました)

・志望校合格の瞬間の気持ち

やるだけやって、これでダメだったら仕方ないというか、もうやりようがないくらいやった、というような境地にいたらしい本人は冷静でしたが、親の私は落ち着かない気持ちでいました。

受験した学校は作文の試験が多かったため、模試の結果だけでは測れない部分が多く不安だったのですが、本人が黙々と淡々とやってきたことが認められた気持ちになり、親としては合格は素直にうれしかったです。

・最後に受験を終えて

日本にずっといなかったためにできない(毎年学校でやってるからみんなは知ってるけど自分は知らない、わからない、できない)ようなことばかりに目が向き、なかなか自分が今まで経験してきたことを自信につなげることができずにいる状態でした。今回の受験で自分がやってきたことは自分の確かな力であり、認められるものだとしり得たことは大きな喜びであり、今後の糧になっていくものと信じています。

本人にとりましても、また親にとりましても、色々不安はつきませんが、合格をいただいたという事実を受けとめ、今後もチャレンジしていこうとの思いでおります。最後までお力添えいただいた先生方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

三田国際中_他合格

息子はこの春から三田国際学園に元気に通学させていただいております。こうして春を迎えることができましたのは、本人の頑張りもさることながら、ena 国際部の先生方のご尽力のおかげだと心から感謝しております。

まず我が家が帰国生受験を決めたきっかけは、ずばり、クラスメイト数人からの理由なきいじめでした。夫の転勤に伴い中国に3年間滞在後、息子は小1の頃通っていたインターに旧友との再会を楽しみに戻りましたが、暴力を含む陰湿ないじめの標的になってしまいました。親としても何度も学校に相談し、いじめが解決するように働きかけましたが、お決まりの表面的な話し合いばかりだったので、ある時点を境に、こちらから見切りをつけて中受に舵を切ることを決断しました。

すでに帰国生受験シーズンまで1年を切っていましたので、まずは専門塾のena 国際部にご相談し、すぐに入塾いたしました。塾長からの最初のアドバイスは、まずは授業に食らいついてください。初めは大変だと思えますが。。。はい、もちろん家族総出でサポートしました。正直、生活は息子中心で私の趣味は全停止。笑去年の夏頃には、「このままじゃ間に合わないかもしれない。」と毎日考えてしまうほどきつかったです。英語については私たちがサポートできるレベルではなかったため、家庭教師さんにもうちに来てもらっていました。

コロナ禍が幸いしてといたら語弊がありますが、それを正当な理由に、問題なく学校を休学することができ、受験勉強に全集中できたことも短期間で成せた要因の一つだと思います。兎に角、この受験を通して息子の学力は以前に比べて段違いに飛躍したことは間違いのない事実です。第一希望には残念ながら結果は届きませんでした。この年齢で一生懸命必死に目標にむけて頑張ったという事実は一生の宝物です。

縁あって合格できた今の学校に楽しそうに通う息子を見ることができ、それだけで親としては何よりも嬉しいことです。この学校に合うか合わないか?はまだ分かりませんが、どうしても合わなくなったら辞めれば良いと私たちは考えております。今考えてもわからない未来を危惧するより、この瞬間の決断をミスしないように、進路を親子でよく話し合い、ena の先生方にもガイドしていただき、次に中学受験される皆様が最善の選択をされ、笑顔で目標達成されることを心よりお祈り申し上げます。